

トヨタ産業技術記念館

研究と創造の精神とモノづくりの大切さを伝えるためにトヨタグループが設立した

★エントランスロビー

環状織機 豊田佐吉が発明したものでこの館のシンボルとなっている

★プロローグ

当時の旧豊田紡織本社工場を再現した模型

★繊維機械館

入口正面には、豊田佐吉の代表作である「G 型自動織機第 1 号機」が展示されている。

ここでは人々がどのように紡ぐ織る技術を発達させてきたのかを見ることができる。

フロア中央には、機械を動かす力、制御する方法など産業の基盤となる技術の移り変わりが展示されている。

紡機コーナー	戦後から導入した技術を日本独自のものに確立していった過程
織機コーナー	豊田佐吉が発明した数々の織機を中心に繊維産業の基盤となる技術の移り変わり

豊田式木製人力織機⇒片手でカサを前後させるだけで、自動的に横入れができるようにしたもので、ボタンつき高機よりも能率が 4～5 割上がり、かつ織物品質を向上した。この機械は後に世界一の自動織機を完成させた豊田佐吉の最初の発明になる。

豊田エアジェットルーム JAT810 - E 型⇒横入れ装置の刷新により圧倒的な省エネ性能を実現している。

また電子開口装置・電子パイル装置を備え、ガーゼタオルから厚地のバスマットまで幅広い分野のタオルを高速で織り上げることができる。

★自動車館

豊田喜一郎が中心となって国産自動車事業拡大にむけ挑戦、邁進した創業期の様子や自動車の基本的な仕組みが学べるコーナーがあり、その先では主要な構成部品ごとの変遷を学ぶことができた。

トヨタ AA 型乗用車⇒トヨタが初めて販売した乗用車

創業期から現在までの各時代を代表する車が展示されていた

自動車技術コーナー	各時代の技術的課題にどのように取り組み、研究、開発を行ってきたのか時代を追って紹介されていた
生産技術コーナー	1930 年代から大きく変わっていった生産技術の様子

自動車の工場生産と研究開発の考え方を 3 つのシアターで見学することができた